



べきとは一年二年の間に於て適宜に習はせる、ソコデ

◎美術解剖―日本の油繪家あぶらえかきで眞の人間の死骸を前に置いて、解剖を研究したものは恐らくは無かるう…造り物の死骸ではあるかも知らぬが…斯る材料は官設の學校になると非常に便利が多い、此度美術學校では久米君が擔當して美術解剖即ち筋と骨に就きて二年三年の洋畫科學生に授けるのです

◎一年二年の間と雖も風景等の畫は其地に臨み寫生やで學まなばせる積りです…總べて繪手本あてを給あてがうといふとはしない唯だ美術學校には古畫の印刷畫などがありますから之を給あてがツて筆の使ひ方を研究させる積りです

◎繪畫に於ける腦裏の教育即ち人物の置き方、光線の取方、色の配合など其想像力を養ひつゝ繪を教へて往くには勢ひ課題が必要殊に歴史畫なる時は其想像力を及ぶ限り廣げるとに便利が多いソコで三年生となれば毎週に一回位宛歴史畫の課題を與へて腦裏あたまの教育をする積りです

『毎日新聞』明治二十九年六月七日